

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
 (仮称)西日本シティ銀行 室町支店 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.7</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00			<b>3.6</b>
1.1 騒音		3.0	0.45	3.0	0.49			
1.2 遮音		<b>4.7</b>	0.45	<b>3.6</b>	0.49			
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2	5.0	0.85	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.15	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.09	<b>3.0</b>	0.03			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.1</b>	0.35	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.2</b>
2.1 室温制御		<b>3.3</b>	0.50	<b>3.7</b>	0.50			
1 室温		3.0	0.51	3.0	0.62			
2 外皮性能	外皮性能に配慮している、等級4の取得	4.0	0.32	5.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.17		-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.5</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.4</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30			
1 昼光率	会議室(セミナー)4.00%、自己啓発室12.82%、談話室2.19%、洋室3.80%	5.0	0.60	5.0	0.51			
2 方位別開口			-	3.0	0.26			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.23			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度	事務室、営業室、会議室等は500lx以上	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気環境</b>		<b>3.7</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00			<b>3.8</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.55	<b>4.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	仕上材料、下地材等は全て対象外材料4☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気		<b>4.1</b>	0.35	<b>4.0</b>	0.38			
1 換気量	基準の1.4倍を満たす	5.0	0.45	5.0	0.33			
2 自然換気性能	事務所用途:居室床面積の1/15以上、住宅住居用途:居室面積の1/8	5.0	0.10	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.45	3.0	0.33			
4.3 運用管理		<b>1.0</b>	0.09		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-		-			
2 喫煙の制御		1.0	1.00		-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.3</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00			<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.1</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペースが9㎡以上	4.0	0.12	-	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.12	3.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	0.75		-			
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40			
1 広さ感・景観	事務室天井高2.90m以上	5.0	0.12	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.12		-			
3 内装計画	建物コンセプトの作成	4.0	0.75	4.0	0.50			
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-			
2 <b>耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30		-			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.5</b>	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:長尺塩ビシート20年、壁:ホーダー・タイル20年、天井:化粧石膏ボード30年	4.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種がB以上、Eは不使用	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.11	<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	事務所用途階階高3.88m以上、住宅用途階高2.90m	4.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率事務所用途0.27、住宅用途0.59	4.0	0.40	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.11	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.78		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		高性能断熱材、複合ガラスの採用	<b>4.5</b>	0.20		-	<b>4.5</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 0.83 住宅(専有部) 0.91	<b>4.4</b>	0.50		-	<b>4.4</b>
	集合住宅以外の評価(3a.3b)	LED照明等の高効率設備機器の採用	4.0	0.45		-	
	集合住宅の評価(3c)	LED照明等の高効率設備機器の採用	4.8	0.55		-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	<b>3.7</b>
	集合住宅以外の評価		<b>3.5</b>	0.45		-	
4.1	モニタリング	中央監視設備の設置	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価		<b>4.0</b>	0.55		-	
4.1	モニタリング	中央監視設備の設置	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	居住者に設備毎の取扱説明書を渡し、省エネに関し一般的な説明を行	4.0	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
1.1	節水	節水型水栓に加え、節水型便器の採用	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60		-	<b>2.8</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地を採用、フリーアクセスフロア、可動間仕切の採用	5.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用	防水工事のプライマー	4.0	0.30		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2=85%	<b>3.6</b>	0.33		-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
2.1	大気汚染防止		<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		<b>3.0</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす、広告物照明無し	5.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	